

■取り組み事例



町も巻き込み、
サシバの棲む里山を守る！

■実施年度

2012～2014年度（3年間）

■運営支援団体

特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク

■実施団体

見て、感じて、守ろう「サシバと里山の仲間たち」実行委員会
(事務局：オオタカ保護基金、とちぎボランティアネットワーク)



栃木県

全国展開期

2012年度から2014年度までに9回、生き物観察会などのイベントを実施しました。町外からの参加者が増えるのに伴い、町民の地元に対する意識も変わっていききました。イベントの当初から、「地域おこし」の視点を持っていた町長も参加しており、市員町にある道の駅が「サシバの里」の拠点となりました。プロジェクト3年目の2014年には、「市員町サシバの里づくり基本構想」が策定され、「サシバ」を地域全体で守っていく動きへと発展しました。「サシバの里」は、環境省の「生物多様性保全上重要里地里山」にも選定されました。

「SAVE JAPAN プロジェクト」で実施したイベント

2012年 6月10日	田んぼの生き物観察会&里山保全活動	参加者18名
2012年 10月6日	秋の田んぼの生き物観察会&里山保全活動(草刈り)	参加者20名
2012年 12月15日	コウノトリから学ぶ「サシバの里づくり」シンポジウム	参加者56名
2013年 6月1日	田んぼの生き物観察会&里山保全活動(田植え・草刈り)	参加者35名
2013年 10月12日	サシバを守ろう! 秋の生き物観察会&保全活動	参加者25名
2013年 12月15日	サシバを近くで見よう!&シンポジウム	参加者66名
2014年 6月8日	サシバの里、田んぼの生き物観察会&保全運動	参加者18名
2014年 11月29日	クマタカを守る! 塩原クマタカの森で野鳥観察会&森づくり	参加者25名
2015年 1月18日	サシバ、クマタカを近くで見よう!&シンポジウム	参加者64名

実施団体の声

- 「SAVE JAPAN プロジェクト」のおかげで、年単位で計画的にプログラムを実施できます。やはり、これだけのプログラムをNPOの自主財源で行うことはなかなか難しいと思います。
- 回を重ねるごとに地元でも知られるようになったので、当日に地元の方が飛び入りで参加してくれるようになりました。地元の人の協力があってのイベントなので、受け入れが可能であれば参加してもらおうようにしています。
- 意見交換会で参加者の意見を聞いた時に、思ったより地元の人たちが真剣に考え取り組もうとしていると感じられました。
- 始めた頃の2012年にはサシバの存在も薄いものでしたが、3年目には、オープンした道の駅に「サシバ」の名前が使われるなど、この地域での存在が大きくなってきたことを実感します。NPOなどの民間と行政がある程度一体感をもって取り組んだ結果ではないかと思っています。

福井県

地域定着期・挑戦期



コロナ禍でも子どもたちと
できる活動を模索!

■実施年度

2016～2020年度（5年間）

■運営支援団体

特定非営利活動法人さばえNPOサポート

■実施団体

一般社団法人環境文化研究所



2016年度から2019年度までは毎年3回ずつ、子どもたちが川や森でさまざまな生き物とふれあえるイベントを企画してきました。しかし、2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、現地に集まるイベントが実施できなくなりました。多くの団体が活動中止を余儀なくされましたが、YouTube動画を通して在宅で実施できる活動の紹介やその報告を双方向で実施したり、カードゲームを制作するなどして活動を続けました。

「SAVE JAPAN プロジェクト」で実施したイベント

2017年 4月23日	トリの目、ムシの目、サカナの目	参加者31名
2017年 5月28日	トリの目、ムシの目、けもの目	参加者37名
2017年 7月23日	トリの目、ムシの目、自分の目	参加者42名
2018年 7月16日	自然体験「あすわ川・水と命の道」#1	参加者41名
2018年 9月24日	自然体験「あすわ川・水と命の道」#2	参加者29名
2018年 10月14日	自然体験「あすわ川・水と命の道」#3	参加者11名
2019年 7月21日	2019夏・ぼくらの自然再生プチ作戦#1	参加者49名
2019年 8月18日	2019夏・ぼくらの自然再生プチ作戦#2	参加者45名
2019年 9月29日	2019夏・ぼくらの自然再生プチ作戦#3	参加者47名
2020年 5月～10月	目覚めよレンジャー! ぼくらのランドスケープ大作戦	オンライン動画9本
2020年 8月22日	ランドスケープ大作戦 生き物ネット相談室	オンライン119回視聴
2021年 3月	ランドスケープ大作戦 カードゲーム	200セット作成・配布

実施団体の声

- 共催したことで、これまでの自団体のイベント実施方法などの見直しの必要性を感じました。
- 運営スタッフや講師サイドのメンバーも、「手づくり魚道」のその後を気にかけて、雨の後に訪れて簡単な補修を行うなど、自主的にコミットする姿がありました。このあたりに、環境問題や希少生物への関心の継続と、多様な立場のひとりひとりが活動に参加していくヒントがあるように強く感じました。
- 行政系の補助金等とまた違って、「企画段階からの自由度の高い事業」への資金援助は、事業そのもののクオリティだけでなく、参加者、スタッフのモチベーションにも直結する、とても重要な仕組みだと思います。
- カードゲーム作成により、実体験ができにくい中でも生き物や生息地への興味や関心、知識を得られる仕組みを作ることができました。「参加者募集」形式のイベントとは違うパワーにつながる可能性があると思います。



継続して実施することで 知見が積み重なっていく！

「SAVE JAPAN プロジェクト」で実施したイベント		
2013年7月20日	中津干潟生き物観察会	参加者 205名
2013年8月5日	アカテガニ産卵観察会	参加者 38名
2013年12月8日	ズグロカモメ観察会	参加者 26名
2014年7月26日	中津干潟生き物観察会	参加者 123名
2014年8月3日	山国川おさかな観察会	参加者 27名
2015年7月18日	中津干潟生き物観察会	参加者 187名
2015年8月2日	山国川おさかな観察会	参加者 72名
2015年11月28日	ベッコウトンボの生息地をみんなで守ろう	参加者 19名
2017年5月3日	ベッコウトンボ観察会	参加者 34名
2017年5月27日	中津干潟まつり「がたふえす」	参加者 96名
2017年7月22日	中津干潟生き物観察会	参加者 120名
2018年5月3日	絶滅危惧種ベッコウトンボ観察会	参加者 38名
2018年5月26日	がたふえす	参加者 44名
2018年7月21日	山国川いきもの観察会	参加者 53名
2019年5月3日	ベッコウトンボ観察会	参加者 30名
2019年8月17日	中津干潟子どもアカデミア	参加者 144名
2019年12月1日	(プレイベント)ズグロカモメ観察会	参加者 22名
2019年12月22日	(プレイベント)中津干潟アカデミア	参加者 58名
2020年11月25日	中津干潟ねっと観察会	全3本の動画公開
2020年12月20日	中津干潟 NETアカデミア	中津市・中津市教育委員会との共催

大分県

全国展開期・地域定着期・挑戦期

瀬戸内海最大の中津干潟は、日本の各地で姿を消した生物たちが数多く生息しています。活動のシンボルでもあるカブトガニをはじめ、アカテガニ、ズグロカモメ、ベッコウトンボなどの生き物観察会を干潟や川、池で7年間継続して実施してきました。プロジェクトの伴走支援団体も当初から変わっていません。水辺に遊ぶ会の活動は、2020年に、これまでの活動が評価されて第26回日韓（韓日）国際環境賞にも選ばれました。



■実施年度

2013～2020年度（8年間）

■運営支援団体

特定非営利活動法人おおいたNPOデザインセンター

■実施団体

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

実施団体の声

- 寄付のおかげで、活動に関する冊子を作成して参加者に配布することができました。
- イベント実施にあたり各大学や地元の社会教育団体にお声がけしたところ、皆心よく協力してくれました。
- 干潟に関する学術的なストックが増え、生物保護への理解も広まりました。
- 自分たちの地域に誇れるものがあることで、地域活性化の一翼を担える可能性があると思います。
- 家族で参加できるメニューを考え実践できたことで、希少種の生き物がすむ環境を保全することの大切さを知っていただけました。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、主要な観察会ができないジレンマに陥りましたがその間、自分たちの過去から未来への活動の見直しなどができ、ホームページを基本とする情報発信に力を入れることができました。
- このプロジェクトのおかげもあり、中津干潟一帯を公的枠組みで保全する機運づくりができつつあります。今後も希少種の宝庫である中津干潟を見守っていただけのように、よろしく願い致します。



SAVE JAPANプロジェクトが市民社会にもたらしたもの

特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長

吉田 建治



2011年に始まった「SAVE JAPANプロジェクト」は、10年を超える活動となりました。これだけの期間、このプロジェクトを継続してこられたのは、各地の環境NPO、NPO支援組織、損害保険ジャパン株式会社をはじめとして、このプロジェクトの趣旨を理解し、賛同し、関わってくださった多くの方々のおかげです。まずこの場を借りて、心から感謝を申し上げたいと思います。

「SAVE JAPANプロジェクト」は、全国の環境団体、NPO支援組織と損保ジャパン、日本NPOセンターが協働して、市民参加型の環境イベントを開催し、10年間で5万人近い参加者を得ることができました。「いきものが住みやすい環境づくり」という全国共通のテーマのもと、各地で活動する環境団体の、それぞれの得意と地域性を活かした個性豊かな取り組みが進められたところに特徴があります。

このプロジェクトで一緒した環境団体の多くは、地域に根差して活動をしている小規模な団体です。こうした小規模な団体は往々にして事務局体制に課題を抱え、活動の継続に苦勞をしているといわれます。しかし、本プロジェクトを通して、7割を超える団体がイベントへの新規参加者を増やし、半数近い団体が会員を増やし、1/3の団体が新規スタッフを増やしています。市民が参加しやすいプログラムづくりがすすめられたこと、イベントへの取材等、より多くの市民の目に触れる機会につながったこと、地域内のネットワークが広がったこと、全国の事例を共有する機会により活動への新たな視点が加わったことなど、組織の活性化や運営強化に貢献する結果が多

く報告されました。

このように、「いきものが住みやすい環境づくり」を実現することとともに、身近な環境保全活動に関心を持ち、参加し、支える人たちの輪を広げたことは、本プロジェクトが生み出した、今後に残る大きな成果です。

そしてこうした成果は、本プロジェクトの協働を重視した枠組みによるものだと考えています。多くのステークホルダーが協働するという仕組みは、一朝一夕でできるものではありません。それぞれの組織の大きさや成り立ちが異なれば、意思決定プロセスも異なります。そうした違いを乗り越えるべく対話を重ね、環境団体のみなさまが新たな取り組みにチャレンジし、各地域のNPO支援組織のみなさまが「つなぐ」役割を担い、損保ジャパンのみなさまが支えてくださったからこそ実現したものです。

本プロジェクトは多くの方の参加が不可欠な生物多様性の保全において、協働で取り組むというモデルを示すことができました。これからもそれぞれの地域で協働での活動が発展し、豊かな環境が保たれることを願っています。

今後ともより一層のご協力、ご支援をお願いいたします。



社会的価値の計測・可視化（SROI手法による分析）

SROI概要&結果解説

SAVE JAPANプロジェクトでは、2011年度～2015年度（全国展開期）にプロジェクトの社会的価値を可視化するため、SROI（社会的投資収益率）手法を用いて、プロジェクトによって生じた変化を価値づけて算出しました。

めざす姿

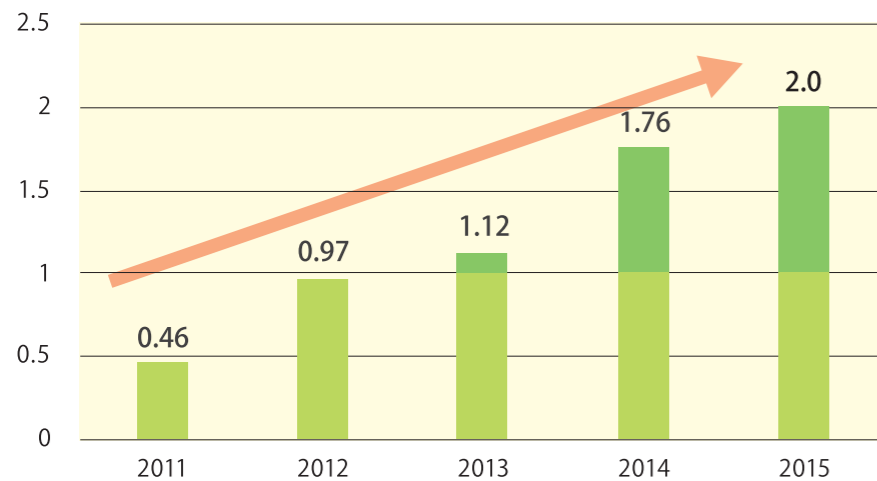
企業の本業CSRの取り組みを通じた地域のステークホルダーとの協働による日本の生物多様性保全

- ・市民への環境保全活動の機会の提供（市民の環境意識向上）
- ・NPOの組織強化支援（組織運営能力向上）

効果測定（SROI分析）の目的

- ・社会的価値、事業的価値を貨幣化（定量化）・可視化することにより「目指す姿」の実現度合を把握する。
- ・プロジェクトの継続的な改善に活用する。
- ・第三者視点で客観的に効果を測定・把握する。

SROIの推移（社会的投資収益率）



本プロジェクト開始から2年間は「初期投資」期間でもあり、費用が社会的・事業的価値を上回る状態でしたが、3年目から1.00を超えて費用を上回る便益が生み出されると、その後も右肩上がりで増加し、5年目には「2.00」となり、本プロジェクトの有効性・効率性が数字でも実証される結果となりました。

SROI（社会的投資収益率：Social Return On Investment）とは

事業への投資価値を、より広い価値の概念に基づき、評価、検証するフレームワーク。従来のままでは貨幣価値として捉えにくかった社会的価値についても「代理指標」を用いて貨幣価値化することで、社会的価値を含めた形で事業のパフォーマンスを把握することができる。

みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境（2015年度の社会的価値を推計）





■ SAVE JAPANプロジェクトと生物多様性に関する国内外の動き

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016 2017	2017 2018	2018 2019	2019	2020	2021
SAVE JAPANプロジェクト		全国展開モデル (2011年度)	全国展開期 (2012年度～2015年度)				地域定着期 (2016年度～2019年度)				挑戦期 (2020年度)	行動変容期 (2021年度)
		12道府県 34回のイベント開催 (2096人参加)	47道府県 153回のイベント開催 (9011人参加)	47道府県 139回のイベント開催 (6993人参加)	47道府県 149回のイベント開催 (6857人参加)	47道府県 153回のイベント開催 (6025人参加)	35道府県 97回のイベント開催 (5663人参加)	33道府県 69回のイベント開催 (5187人参加)	29道府県 65回のイベント開催 (3560人参加)		8道府県 14回のイベント開催 *オンライン (1502人参加 *オンライン)	19道府県で開催
生物多様性に関する動き	<ul style="list-style-type: none"> ● COP10「国連生物多様性の10年」(愛知目標)採択(10月) ● 生物多様性国家戦略2010の策定(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小笠原諸島が世界自然遺産登録(6月) ● 海洋生物多様性保全戦略の策定(3月) ● 福島第一原子力発電所事故発生(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)(10月) ● 生物多様性国家戦略2012・2020の策定(9月) ● ニホンカワウソが絶滅種に指定(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ニホンウナギが絶滅危惧種に指定(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● パリ協定採択(COP21)(12月) ● SDGs(持続可能な開発目標)(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「SDGs実施指針」の決定(12月) ● 生物多様性条約第13回締約国会議(COP13)(12月) ● パリ協定発効(11月) ● SDGsの実施のための我が国の指針の策定(5月) ● 地球温暖化対策計画(5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 種の保存法一部改正 ● (希少種保全動植物園等認定制度の創設)(2月) ● SDGsアクションプラン2018の公表(12月) ● ABS指針の施行(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性条約第14回締約国会議(COP14)(11月) ● 環境省が「地域循環共生圏」を提唱(4月) ● 「SDGs実施指針」の改定(12月) ● 国連気候行動サミット開催(ニューヨーク)(9月) ● G20大阪サミット開催(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 首相所信表明演説「脱炭素社会の実現」(10月) ● レジ袋有料化(7月) ● 新型コロナウイルス感染症の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)(10月) ● 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が世界自然遺産登録(7月) 	